

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」^{ほうそうげんこう} 放送原稿（1月30日（金）放送分）

テーマ 新着図書紹介

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様、おはようございます。鹿児島県立奄美図書館です。

今回は、2月に入る新しい本の中から5冊を紹介いたします。

はじめに、一般書を2冊ご紹介します。

1冊目にご紹介するのは、第152回直木賞受賞作、^{にし か な こ}西加奈子さんの著書『サラバ！』です。

「僕はこの世界に、左足から登場した。」という一文から始まる小説は、主人公の僕がこの世に生まれてから37歳の現在に至るまでを描いた、上下2巻に及ぶ長編小説です。

…幼い頃から家族に振り回され続け、素直ないい子でしようと、受け身で波風を立てぬように生きてきた僕。大きくなって、家族を避けるように生活し、僕の人生は^{じゅんぷうまんぱん}順風満帆そのものだった。ところが途中で何かが狂い始める。…

僕の半生にピタリと寄り添って読み進めていくのは、面白く、飽きることがありません。イラン生まれの大阪育ちという著者と主人公の境遇が似ているところも興味深いです。

2冊目に紹介するのは、^{う どう ゆ み こ}有働由美子さんの書いた『ウドウロク』です。有働由美子さんはNHKの生活情報番組「あさイチ」に出演しており、すっかり朝の顔となっています。鹿児島県出身ということで、身近に感じられる方も多いのではないのでしょうか。

テレビで話題になったことや、仕事の裏側、番組でつい口を^う衝いて出てきてしまった「有働語録」など、等身大の有働由美子が^{せき ら ら}赤裸々に^{つづ}綴られています。一見バリバリと仕事に生きているかのように見えますが、ちょっぴりせつない、45歳独身女性の独り言も聞こえてくるようです。

次に、児童書を2冊ご紹介します。

1冊目にご紹介するのは、2014年、ノーベル平和賞を受賞した、マララ・ユスフザイさんの書いた『マララ～教育のために立ち上がり、世界を変えた少女～』という本です。

マララさんは、アフガニスタンとの国境に近いパキスタンのスワートという町で生まれました。学校に行って勉強するのが大好きで、弟や級友たちとケンカしてしまう、どこにでもいるごく普通の女の子です。この本を読むと、マララさんがどんな女の子なのか、どういう環境で育ったのかがよくわかります。ニューヨークの国連本部で、世界のすべての子どもたちが教育を受けられるように訴えた姿は、皆さんの記憶にもまだ新しいことと思

います。タリバンに命を狙われつつも、どのようにして平和と子どもの教育の権利を広く世界に訴えてきたのか、マララさん自身の文章でわかりやすく書かれている本です。

2冊目にご紹介するのは、わたなべちなつさんの書いた、『かがみのえほん ふしぎなにじ』という絵本です。

ページをめくるとにいろんな種類のにじが現れるのですが、ページの開き具合でにじが様々な形に変わっていきます。立体的にも見えるので不思議です。何度でもページを開きたくなるような楽しい絵本です。ご家族で一緒に楽しんでもらいたい絵本です。

最後に、郷土に関する本のご紹介です。

橋川^{ぶんそう}文三著『西郷隆盛紀行』という本です。この中に、「西郷隆盛と南の島々ー島尾^{しまおとし}敏雄氏との対談」という章があります。大学教授であった橋川氏は、西郷隆盛の評伝を書く下準備のため奄美を訪れ、県立図書館奄美分館長の島尾敏雄氏と会います。流^る謫^{たく}先の島における西郷隆盛のイメージをつかむ目的で対談を行いますが、話は西郷にとどまらず、奄美と鹿児島^{かごしま}の関係、奄美と沖縄の関係、奄美の宗教についてなど、どんどん話が発展していきます。橋川氏が「あとがきに代えて」の中で、「島尾敏雄氏との対談の記憶はおそらく永遠に私の西郷論の根底を形づくる」と述べているように、読み^{よみ}応^{こた}えのある内容になっています。

ヒカンザクラの花が咲きほころび、春の訪れももう、すぐそこです。寒暖の差のある時期ですので、皆様、どうぞ体調管理にはお気をつけください。

以上、鹿児島県立奄美図書館でした。